



2018年7月20日  
新潟支社

## 現美新幹線 「GENBI SHINKANSEN」

～16号車のアート作品をリニューアルします～

- 「GENBI SHINKANSEN」(現美新幹線)は、2018年4月で運行開始3年目を迎えこれまで多くのお客さまにご利用いただきました。
- 本年は新潟県内で3年に一度開催される大きなアートイベント「水と土の芸術祭(新潟市)」及び「大地の芸術祭(十日町市・津南町)」が開催されます。アートに注目が集まるこの機会に、現美新幹線のアート作品の一部をリニューアルします。
- 新しいアート作品は、美術家<sup>あき い の また</sup>AKI INOMATA氏による、新潟県燕市国上山の中腹にある「五合庵」および新潟県柏崎市高柳町にある「荻ノ島かやぶき環状集落」をモチーフにした作品です。現美新幹線車内で初披露となる作品は、2018年7月28日(土)よりお楽しみいただけます。新潟の旅に新たな魅力をお届けする、世界最速の芸術鑑賞「GENBI SHINKANSEN」をどうぞご利用ください。

### ■新しいアート作品について

3月31日より16号車で美術家<sup>あき い の また</sup>AKI INOMATA氏の《やどかりに「やど」をわたしてみる》シリーズを展示していましたが、新潟の美しい里山を舞台にした作品(新潟里山編)が完成し、いよいよ展示を開始します。

### ■16号車(映像作品)<sup>あき い の また</sup>AKI INOMATA氏のコメント

現代アートは目で楽しむことは勿論ですが、作品をキッカケとして思索にふけることも含めて、アート鑑賞であると考えています。移動する車内は思索にもってこいの場所だと思いませんか。昨年末、新作取材のために雪深い新潟をあちこち探索しました。棚田、かやぶきの家々、スキー場、温泉、良寛ゆかりの寺院、橋と港などなど。雪の中のあまりに美しい風景と、冬の厳しさを乗り越える様々な知恵は、自然と人間の関係性をテーマに制作している私にとって、とても興味深いものでした。現美新幹線での鑑賞体験が、みなさまを未知なる思索の旅へとといざなってくれることを願ってやみません。

### 《リニューアル作品イメージ》



© AKI INOMATA / MAHO KUBOTA GALLERY

「五合庵」のイメージをやどかりの「やど」に組み合わせた作品。映像作品ではやどかりがこの「やど」を背負って歩く姿が見られる。

# 現美新幹線

## ■運転日

2018年7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2018年8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2018年9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24	25	26	27	28	29

## ■運転時刻

下り	とき451号	とき453号	とき455号
越後湯沢	08:24 発	12:44 発	15:20 発
浦佐	08:37 発	12:57 発	15:33 発
長岡	08:49 着 08:50 発	13:09 着 13:14 発	15:45 着 15:50 発
燕三条	09:01 発	13:25 発	16:01 発
新潟	09:14 着	13:38 着	16:14 着

上り	とき452号	とき454号	とき456号
新潟	11:26 発	14:02 発	16:42 発
燕三条	11:39 発	14:15 発	16:55 発
長岡	11:49 着 11:54 発	14:25 着 14:26 発	17:05 着 17:06 発
浦佐	12:08 発	14:44 発	17:24 発
越後湯沢	12:20 着	14:56 着	17:36 着

## 水と土の芸術祭

Water and Land Niigata Art Festival 2018

■開催期間 2018年7月14日(土)～10月8日(月・祝)

■会場 新潟市万代島多目的広場他

■お問い合わせ 水と土の芸術祭2018実行委員会事務局 TEL. 025-226-2629

「私たちはどこから来て、どこへ行くのか～新潟の水と土から、過去と現在を見つめ、未来を考える～」を基本理念に第4回目の開催となります。今回は「地水火風の四元素とそれによって育まれる生命」と「環日本海」という2つの柱をコンセプトに国内外で活躍するアーティスト達の作品を展示します。



松井紫朗《君の天井は僕の床/One Man's Ceiling is Another Man's Floor》2011年 撮影：山本紉



ECHIGO-TSUMARI  
ART TRIENNALE 2018

## 大地の芸術祭

越後妻有アートトリエンナーレ 2018

■開催期間 2018年7月29日(日)～9月17日(月・祝)

■会場 越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)

■お問い合わせ 大地の芸術祭実行委員会事務局 TEL. 025-757-2637

■公式HP <http://www.echigo-tsumari.jp/>

過疎高齢化が進む日本有数の豪雪地・越後妻有を舞台に2000年から3年に1度開催されている人間の土地と美術の芸術祭です。「人間は自然に内包される」を基本理念に、アートを媒体として地域に内在するさまざまな価値を掘り起こし、その魅力を高め、地域再生の道筋を築くことを目指しています。

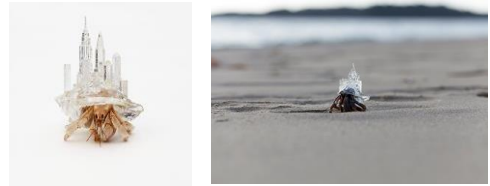


Palimpsest: 空の池 | レアンドロ・エルリッヒ

■今回作品を提供いただくアーティストについて

## AKI INOMATA

1983年東京都生まれ。2008年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。2012年第15回岡本太郎現代芸術賞にて入選。2014年YouFab Global Creative Awardsにてグランプリを受賞。2017年ACCの招聘でニューヨークに滞在。移民・難民・国籍の交換可能性をテーマとし、3Dプリンターで出力したプラスチック製の「やど」をヤドカリに渡す「Why Not Hand Over a “Shelter” to Hermit Crabs?」シリーズを始め、飼犬の毛と作家自身の髪でケーブルを作ってお互いが着用する「I Wear the Dog's Hair, and the Dog Wears My Hair」など、動物と共に制作した作品を多く発表。近年の主な展覧会に2017年「Coming of Age」(Sector 2337、シカゴ)、2016年「ECO EXPANDED CITY」(WRO Art Center、ヴロツワフ、ポーランド)、「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」(茨城県北地域6市町)、2015年「エマージェンシーズ! 025 『Inter-Nature Communication』 AKI INOMATA」(NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] / 東京)、などがある。2018年にはASIAN ART AWARDにて特別賞を受賞したほか、タイのクラブで開催されるThailand Biennale Krabi 2018にも参加が予定されている。  
<http://aki-inomata.com/>



© AKI INOMATA / MAHO KUBOTA GALLERY

※画像は全てアーティストのこれまでの作品です。新作とは異なります。

# 「GENBI SHINKANSEN」の編成図

※2018年7月28日（土）以降

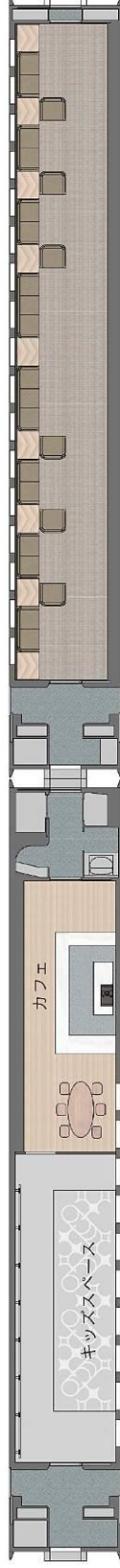


まつもと 松本 尚 (絵画)

11号車

こまゆ 小牟田 悠介 (平面)

12号車



ハラモデル paramodel (絵画・彫刻) 古武家 賢太郎 (絵画)

13号車

いしかわ 石川 直樹 (写真)

14号車



あらいん 荒神 明香 (立体)

15号車

NEW

あき いの また Aki INOMATA (映像)

16号車